

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (実績)	目標 (R6)	所見
基本目標 (1) 暮らしやすさに磨きをかける			年少人口 (0歳～14歳)	人	31,931	31,771	31,731	31,579	31,341	31,484	30,877	31,390	30,538	31,296	30,057	31,202	昨年度に引き続き、目標値からの乖離は続いており、引き続き子育て支援策等の充実を図る必要がある。
			暮らしやすいと思う市民の割合	%	80.9	80.9	84.7	82.0	83.0	83.0	80.5	84.0	77.5	85.0	82.0	86.0	昨年度実績に対し、3.0%減少している。公共交通機関が不便だと感じる市民が70.1%、買い物、日常生活等が不便と感じる市民が46.8%を占めるなど課題は多い。
① 子育てしやすい環境整備																	
(i) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援			子育てに大きな不安や負担を感じている市民の割合	%	44.5	44.0	40.6	43.0	37.7	37.0	43.7	36.0	47.1	35.0	42.4	34.0	20～50代で「負担や不安を感じている」と回答した人が、R4年度で17.8%であったのが、R5年度では16.8%に減少している。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、生活への不安感が低下したことが背景にあるものと思われる。
			合計特殊出生率	―	1.54 (H29)	1.56	1.52 (H30)	1.57	1.48 (R1)	1.58	1.50	1.59	1.39	1.61	1.45	1.62	全国の合計特殊出生率は、1.26の低水準となっている。全国と比較すると高いが、佐賀県の1.53より低くなっている。
(ii) 働きながら子育てできる環境整備			待機児童(園指定待機児童)(保育所)	人	85 〔241〕	111	126 〔254〕	78	110 〔226〕	45	3 〔284〕	0	1 〔330〕	0	0 〔303〕	0	目標は達成しているが、園を指定し待機状態となっている児童の解消に向けた取組みが必要である。
			待機児童(放課後児童クラブ)	人	112	142	142	143	68	19	3	11	23	0	0	0	新たな実施場所の確保や特定の施設で受け入れ人数を増やし目標値を達成した。
(iii) 仕事と生活の調和の実現			男女共同参画推進協賛事業所の登録数	事業所	176	191	189	206	199	221	211	236	230	251	243	266	目標達成にはいたらなかったが、年間目標15件に近い登録を得た。
			男性の1日の家事関連時間「30分未満、全くしていない」人の割合	%	55.2	55.2	48.9	53.2	44.0	51.2	40.1	49.2	45.7	47.2	38.9	45.2	広報活動やイベントを実施し、男性の家事・育児参画について啓発を行った。
(iv) 子どもにやさしいまちづくり			「子どもへのまなざし運動」を意識して子どもと関わるようになった市民の割合	%	34.4	36.1	34.1	37.9	33.6	39.7	39.5	41.4	38.6	43.2	39.5	45.0	まなざしアーチダンス動画の制作、地域や学校等での出前講座、ライトファンタジーのオープニングパレードへの参加など、様々な方法で幅広い層への周知・啓発を図った。また、昨年に引き続き関係団体と連携・協働して取り組んだ結果、ほぼ達成水準の実績値となった。
			園児が楽しく幼稚園・保育所(園)に通っていると感じている市民の割合	%	89.7	94.8	85.7	94.8	81.1	94.8	87.8	94.9	89.3	94.9	91.5	95.0	新型コロナウイルス感染症明けで、幼稚園・保育所(園)での活動がより活発になってきたこともあり、目標値の到達までは行かないものの前年度に比べ数値が上昇したものと考えられる。
			児童生徒が楽しく小中学校に通っていると感じている市民の割合	%	87.6	87.6	81.7	87.6	79.5	87.6	81.8	87.6	81.1	87.6	78.2	87.6	新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、学校教育も徐々にコロナ禍以前に戻りつつある。しかし、働き方改革や教員不足による学校の慌ただしさの影響もあり、学校の対応に不安を感じる保護者もいることも要因と考えられる。
② 誰もが幸せを感じる社会の構築																	
(i) 参加と協働のまちづくり			市民活動(まちづくりや地域の活動等)を行っている市民の割合	%	33.1	42.5	24.3	44.0	27.6	45.5	27.0	47.0	30.5	48.5	28.3	50.0	新型コロナウイルスの影響が減少し、地域活動や社会活動が戻りつつあるが、当該数値は横ばい状態にある。今後も、市民活動に関する情報について、幅広い世代に情報が伝わるよう多様な広報媒体を活用した周知啓発に取り組み、市民活動への市民参加の促進を図る。
			地域での助け合いが行われていると感じる市民の割合	%	70.9	71.2	73.1	72.0	73.6	72.7	77.3	78.0	78.5	78.7	74.7	79.4	例年に比べ50代、60代のポイントが落ち込んでいるため、注視していく必要がある。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(ーは現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	R5 (目標)	R5 (実績)	目標 (R6)	所見
		(ii) 一人ひとりを尊重する社会の実現	人権や同和問題に関心がある市民の割合 (女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人やLGBTs などへの偏見や差別、インターネットによる人権侵害など)	%	55.7	56.0	56.8	56.8	57.7	57.6	57.2	58.4	55.7	59.2	59.1	60.0	各種講座や講演会などの研修機会の回復により、人権・同和問題への関心が高まり、成果指標の向上に繋がった。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (実績)	目標 (R6)	所見
③安心・快適で自立したまちづくり		(iii) 人生100年時代のまちづくり	健康寿命と平均寿命の差	―	男性1.14 女性2.66	男性1.13 女性2.64	男性1.18 女性2.47	男性1.12 女性2.62	男性1.07 女性2.52	男性1.11 女性2.60	男性1.00 女性2.38	男性1.10 女性2.59	男性0.88 女性2.21	男性1.09 女性2.58	―	男性1.08 女性2.57	―
			自分らしくいきいき生活している高齢者の割合	%	71.0	71.6	75.2	72.2	73.6	72.9	73.4	73.6	73.4	74.3	73.7	75.0	前年度実績に対し、実績値は増加している。新型コロナウイルス感染症の影響も減少してきたことから、今後は外出の機会等がより一層増えると予想されるため、自分らしくいきいき生活している高齢者の割合は引き続き増加していくと考える。
	(i) 安全・安心で快適なまちづくり	自主防災組織率	%	71.0	72.0	76.1	73.0	78.8	74.0	78.9	82.0	83.4	84.0	83.7	86.0	令和5年度の実績については、目標を下回っており、また全国平均値(令和5年度:85.4%)にも到達していないため、引き続き組織率の向上を行う。	
		人身交通事故発生率(人口10万人当たりの人身交通事故件数)	件	800	761	737	674	578	596	561	528	469	467	495	413	令和2年中からは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛等により前年比で大幅に事故件数が減少していたが、令和5年の事故件数は増加となった。新型コロナウイルス感染症の行動制限解除による人流の増加が要因のひとつと考えられる。	
		河川整備率	%	79.2	79.4	79.2	79.6	79.2	79.7	79.3	79.8	79.4	79.9	81.9	80.0	函渠及び、護岸の整備進捗を促したため、整備率が前年度より、2.5上昇している。	
		汚水処理人口普及率	%	92.6 (H30)	92.7	92.6	92.7	92.9	92.8	93.7	93.4	94.2	94.0	94.8	94.6	引き続き合併浄化槽の普及率が増加しており、一方で、汲み取り、単独浄化槽の人口減のため相対的に普及率が増加した。	
	(ii) コンパクトで機能的なまちづくり	自然と都市が調和した計画的な土地利用が行われていると感じる市民の割合	%	53.2	53.2	52.7	53.2	54.8	54.2	54.9	55.3	48.5	56.3	56.1	57.3	概ね目標は達成できている。今後も引き続き、都市と豊かな自然環境の共生が可能となるような土地利用の推進を進めていきたい。	
		市民1人当たりの公共交通機関(バス)の利用回数	回	14.1	14.2	14.4	14.3	10.7	14.4	11.6	14.5	13.7	14.6	15.8	14.7	新型コロナの感染症法上の分類が5類に移行されたことや昨年度に引き続き「さがバスまるっとフリーDAY」の実施、またインバウンド増加等により目標を達成した。	
		中心市街地居住者数	人	9,238	9,275	9,083	9,312	8,989	9,349	8,850	9,387	8,803	9,424	8,624	9,462	R5年度の中心市街地居住者数は前年同月比2.03%の減であるが、佐賀市全体では0.65%の減(各年3/末時点)、全国は0.48%の減(各年10/1時点)となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住(住宅・住戸の建築)が進んでいることが要因と考えられる。	
	(iii) 持続可能な低炭素・資源循環のまちづくり	温室効果ガス排出量削減率	%	11.0	12.2	22.6	13.3	35.4	14.5	28.3	15.6	33.2	16.8	41.0	17.9	【目標達成理由】 ・エネルギー消費量の減少(省エネの進展など) ・電力の低炭素化(再エネ拡大、原発再稼働など)に伴う電力由来のCO2排出量の減少	
		1人1日当たりごみ排出量	g/人日	1,009	1,008	1,018	999	992	990	962	981	961	972	937	964	家庭、事業所ともにごみの排出量が減少したが、全国的には低水準であることから、引き続きごみの減量を推進したい。	
		リサイクル率	%	18.2	19.3	18.3	19.6	18.6	19.8	18.0	20.0	18.7	20.3	20.9	20.5	ごみの排出量が減少したことに加え、草・剪定くずのサイクル量(民間)が増加したことで、リサイクル率が大幅に改善されたと推察される。	

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R4 (実績)	R5 (目標)	R5 (実績)	目標 (R6)	所見
基本目標 (2) 都市の魅力高め人を惹きつける			佐賀市に住み続けたいと思う市民の割合	%	58.0	58.0	62.0	59.2	61.6	60.4	60.4	61.6	58.0	62.8	61.2	64.0	目標は達成していないが、3.2%増加した。引き続き、本市の暮らしやすさに磨きをかける必要がある。
			社会増減数	人	▲41	▲35	▲28	▲28	▲95	▲21	▲217	▲14	428	▲7	166	0	社会動態は2年連続で転入超過となっている。引き続き移住施策や暮らしやすさに磨きをかける必要がある。
①都市ブランディングの強化																	
(i) 戦略的シティプロモーションの推進 (佐賀らしさの発信)			シティプロモーションページへのアクセス数	回	2,423	2,500	5,239	3,000	15,368	15,500	20,834	21,000	19,901	21,200	23,150	21,400	SNSによる投稿との連動性により、閲覧数増に繋がった。
			SNS (フェイスブック、インスタグラム、公式ツイッター、ライン) のフォロワー数	人	25,531	26,700	31,053	27,900	41,542	42,000	46,754	47,000	53,963	55,400	56,953	57,700	各SNSでの効果的なキャンペーンを実施したことによりフォロワーが増加した。
(ii) 市民が愛着や誇りを感じるまちづくり (シビックプライドの醸成)			佐賀市に愛着を持っている市民の割合	%	88.2	88.2	89.3	88.9	91.0	89.6	89.1	90.3	88.3	91.0	90.9	92.0	目標値は達成できなかったが、昨年実績よりも増加している。引き続き、シビックプライドの醸成を図る必要がある。
			佐賀が好きと答えた子どもの割合	%	89.6	90.0	90.3	90.4	90.3	90.8	90.2	91.2	88.3	91.6	91.4	92.0	学校や地域社会との関わり等で、子どもたちが「人の温かさ」や「自己有用感」などを感じていると思われる。ほぼ達成水準の実績値となった。これは、子どもを育む4つの場で一体的に展開している「子どもへのまなざし運動」の16年間の成果と捉えている。
(iii) 街の顔となる駅前空間の形成			中心市街地居住者数 (再掲)	人	9,238	9,275	9,083	9,312	8,989	9,349	8,850	9,387	8,803	9,424	8,624	9,462	R5年度の中心市街地居住者数は前年同月比2.03%の減であるが、佐賀市全体では0.65%の減 (各年3/末時点)、全国は0.48%の減 (各年10/1時点) となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住 (住宅・住戸の建築) が進んでいることが要因と考えられる。
			主要商店街通行量	人	51,349	75,000	63,150	80,000	46,780	85,000	51,607	90,000	52,168	95,000	67,248	100,000	R5年度の通行量は、R5.5の新型コロナウイルス感染症5類移行後、市民等の外出や中心市街地におけるイベントの開催等の自粛が求められなくなり平常の生活形態に戻ったことや、SAGAアリーナ設立や佐賀駅周辺整備効果により、コロナ禍前 (H31年：63,150人) を上回る水準まで回復している。一方で目標値未達成の状況が続いており、SAGAアリーナと中央大通りにおける南北軸の強化など街なかへの回遊促進を引き続き実施していく必要がある。
			佐賀駅乗客数	人	12,624	12,624	12,348	12,624	8,546	12,624	9,404	12,687	10,619	12,750	—	12,813	—
(iv) 自然と調和のとれた都市環境の実現			市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合	%	57.2	57.7	56.3	58.2	56.7	58.7	59.1	59.2	55.7	59.7	55.7	60.2	市街地での樹木の適切な管理が行き届いていないことや、市民に市の魅力的な景観に気づいてもらえていないことが要因と考えられる。今後は今あるみどりを育て (育樹)、活かす (活樹) とともに、市民の意識向上と都市緑化の価値の向上を目指す。
			水辺空間に親しみを感じている市民の割合	%	69.6	73.2	73.3	73.7	72.1	74.2	71.9	74.7	70.4	75.2	73.0	75.7	尼寺排水機場の竣工など、浸水対策の推進・周知が功を奏し、水辺空間に親しみを感じている市民の割合が上昇したと考えらえる。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R 2 (目標)	R 2 (実績)	R 3 (目標)	R 3 (実績)	R 4 (目標)	R 4 (実績)	R 5 (目標)	R 5 (実績)	目標 (R6)	所見
		(v) 歴史・文化によるアイデンティティの形成	市内で開催された歴史関連のイベントや活動に参加または自ら取り組んだ市民の割合	%	24.6	24.6	14.9	24.7	9.6	24.8	9.9	24.9	12.0	25.0	12.2	25.0	割合は少しずつ増えてきている。これまで参加したことがない方に関心を持ってもらえるようなイベントや活動の実施と分かりやすい周知やP Rに努めていきたい。 ◎参考 (R 4とR 5のイベントや入館者数比較) 大隈重信記念館 R 4 : 11,546人 ⇒R 5 : 9,923人、佐賀市歴史民俗館 ⇒R 4 : 50,058人⇒R 5 171,528人、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 R 4 : 17,577人 ⇒R 5 : 16,868人
②交流・関係・定住人口の拡大																	
		(i) 観光ホスピタリティの充実	観光入込客数 (日帰り客)	万人	378.0	350.7	332.2	357.7	243.0	364.9	262.9	372.2	281.1	379.6	357.1	387.2	イベント等が本格的に開催されるようになり、観光入込客数は増加傾向となった。
		(i) 観光ホスピタリティの充実	観光入込客数 (宿泊客)	万人	72.1	69.5	72.6	70.2	38.8	70.9	38.2	71.6	50.4	72.3	67.8	73.1	国内外の宿泊旅行需要は回復傾向にあるが、都市部と比較して回復が遅れがみられる。
		(i) 観光ホスピタリティの充実	観光客 1 人当たりの消費額	円	6,568	6,601	6,588	6,634	6,601	6,667	6,561	6,700	6,705	6,734	6,933	6,768	旅行需要の回復に伴い、観光消費額も増加傾向にある。
		(ii) 特色を活かした移住・定住の促進	30歳～39歳の転入超過数	人	63	80	123	97	78	115	▲ 1	133	234	150	119	168	目標値は達成していないが、転入超過傾向にはある。引き続き移住・定住の促進に努める必要がある。
		(ii) 特色を活かした移住・定住の促進	ふるさと納税寄附件数	件	19,359	26,000	63,612	33,800	102,533	43,940	131,388	137,957	162,505	144,854	107,859	152,096	制度改正の影響もあり、目標値を下回った。引き続き各種案内等により周知に努める。 寄付額【R4】1,592,993千円 【R5】1,257,157千円
		(iii) コンベンションの誘致	大会等誘致数	団体	45	42	33	46	5	48	12	51	22	54	35	57	【観光】新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、学会やスポーツ合宿、競技大会等の開催が増加した。 【スポ振】新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった世界大会が日本で開催され、海外選手団を受入れることができたものの、予定していたチームのキャンセルがあり、トップレベルチームの受入れが伸びなかった。国内チームの合宿は相談件数も増加し、順調に増加している。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R 2 (目標)	R 2 (実績)	R 3 (目標)	R 3 (実績)	R 4 (目標)	R 4 (実績)	R 5 (目標)	R 5 (実績)	目標 (R6)	所見
基本目標 (3) 多様な人材で強い経済をつくる		納税義務者数 (所得割)		人	102,360	103,384	103,421	104,417	104,261	105,462	104,813	106,516	105,215	107,581	105,909	108,657	目標値には至らないが、実績値は伸びてきている。引き続き経済基盤を強化するとともに、企業の成長を促
		市内総生産		百万円	867,985 (H28)	877,783	878,182 (H29)	877,783	896,659 (H30)	877,783	918,288 (R01)	877,783	903,981 (R02)	877,783	―	877,783	―
①人材の育成と確保																	
	(i) 多様な人材の確保	就業者数 (全産業計)		人	120,282 (H28)	120,883	120,489 (H29)	121,488	120,724 (H30)	122,095	121,595 (R01)	122,706	121,907	123,319	―	123,936	―
	(ii) 時代が求めるひとづくり	生徒 (中学2年) の基礎学力の水準		―	0.77	0.78	0.84	0.79	0.74	0.80	0.76	0.81	0.66	0.82	0.65	0.83	令和4年度の実績と比較して、ほぼ同等であった。佐賀県の学力水準と比較しても、ほぼ同等であった。今後も、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の充実を図っていく必要がある。
		仕事や学校以外で、何らかの知識や技術を身に付けるための取組をしている市民の割合		%	27.9	42.4	30.0	43.9	30.0	45.4	27.6	46.9	26.6	48.4	29.3	50.0	第5類に移行され、ある程度制限が緩和されたことが影響しているのか、R4年度と比較したら微増に推移している。今後は目標の50%程度に近づいていくよう広報等に努めたい。
	(iii) 若者を振り向かせる就労機会の拡大	20歳～29歳の転出超過数		人	392	368	477	343	519	318	356	293	119	268	450	243	大学卒業後の就職に伴う転出超過と考えられるため、引き続き、雇用創出に係る取組の推進などを継続していく必要がある。
		IT企業誘致数【累計】※カッコ内は単年度		社	―	3 (3)	3 (3)	6 (3)	7 (4)	9 (3)	9 (2)	12 (3)	14 (5)	15 (3)	19 (5)	18 (3)	IT企業の進出意欲は堅調であり、目標値を達成できた。
②地域経済を支える産業の振興																	
	(i) 企業誘致の推進	誘致企業数【累計】※カッコ内は単年度		社	―	3 (3)	3 (3)	8 (5)	7 (4)	13 (5)	9 (2)	18 (5)	15 (6)	23 (5)	22 (7)	28 (5)	佐賀大和IC工業団地は完売したことなどにより、目標値を達成できた。
		新規雇用者数【累計】		人	―	16	13	70	47	180	42	290	70	400	121	510	求職ニーズとのミスマッチや昨今の人件費高騰に伴う採用控えなどで目標値を達成できていない。
	(ii) 創業支援の強化と事業承継の促進	創業に関する相談件数		件	238	242	140	246	161	250	218	254	318	258	―	262	―
		事業承継に関する相談件数		件	44	48	83	53	60	58	76	64	91	70	―	77	―
	(iii) 中小企業・小規模企業の成長支援	年間商品販売額 (商業)		億円	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	―	5,746	―
		年間製造品出荷額等 (工業)		億円	2,786	2,786	2,963	2,786	3,117	2,878	2,924	2,878	2,878	2,953	―	3,232	―
	(iv) 第一次産業の生産・流通の高度化	農業産出額		億円	242.3	243.0	221.7	243.5	231.4	244.0	223.2	244.5	226.7	245.0	237.3	245.5	高単価な農作物の作付面積が拡大したことで前年度と比較して産出額は増加したが、目標には達していない。
		木材生産額 (素材生産額)		億円	1.33	1.51	1.38	1.68	1.06	1.85	2.55	2.02	2.51	2.19	2.12	2.36	【達成】目標達成率97% これまでの材価の上昇が落ち着いたことで、材が多くなる皆伐面積が見られた。 今後、皆伐及び間伐が拡大できるよう、林業機械の確保や、人材育成等の支援を進めたい。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

(―は現時点で数値が未公表のもの)

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R4 (目標)	R 4 (実績)	R5 (目標)	R5 (実績)	目標 (R6)	所見
			漁業生産額	億円	169.7	169.9	170.2	170.1	146.6	170.3	174.7	170.5	135.8	170.7	178.5	170.9	漁業生産額の大部分を占めるワリ養殖について、令和5年度は昨年度に続き海況悪化等のため生産枚数が落ち込んだが、平均単価が23.72円/枚と前年からさらに22.8%増の高値となり、結果として生産額は目標を上回った。
		(v) 未来を見据えたバイオマス産業の推進	バイオマス等関連企業の進出数【累計】※カッコ内は単年度	社	-	2 (2)	2 (2)	3 (1)	2 (0)	3 (0)	4 (2)	4 (1)	3 (-1)	4 (0)	3 (0)	4	令和5年度中に新たな企業進出はなかった。今後新たに進出を予定している事業者が1社あり、引き続き新規企業進出を促進していく。